

埼玉王

第23回埼玉・タイ王国友好協会 総会・講演会を 書面開催

7月12日(月)に開催を予定していた第23回総会・講演会は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、残念ながら中止といたしました。総会で審議を予定していた左記の3議案に関しては、役員会による書面決議といたしました。その結果、すべての議案について、会員の皆様からご提出いただきました「同意書」の過半数の同意をもって承認されました。

2020年度事業報告では、日タイ修好130周年記念事業の継続として今回が最後となる、電気の無い村の通学路への太陽電池式街灯設置や、チェンマイ県メーター幼小中校保健室建設事業の実施について報告いたしました。

また、2021年度事業計画では、日タイ修好135周年記念事業の支援として、チェンライ県への教育関連施設の建設事業を検討してまいります。

【審議事項】

- 第1号議案 2020年度事業報告及び収支報告
- 第2号議案 2021年度事業計画(案) 及び収支予算(案)
- 第3号議案 役員改選について



▲テープカットをする前の集合写真



▲完成した保健室

役員紹介

総会審議の結果、次の方々が役員に就任されました。(敬称略)

山口 泰明 前衆議院議員

土屋 品子 衆議院議員

原 敏成

武州ガス(株) 代表取締役社長

利根 忠博

埼玉県経営者協会 名誉会長

池田 一義 埼玉県商工会議所連合会 会長

吉野 寛治

吉野電化学工業(株) 代表取締役社長

吉原 浩行

本田技研工業(株)埼玉製作所 生産本部 生産業務部長

藤池 誠治 代表取締役会長

長尾 美津子

ガールスカウト埼玉県連盟

小嶋 一晃 常勤監査役

島村 健 代表取締役社長

細沼 直泰 代表取締役社長

日本仲管(株) 代表取締役社長

高月 美彦 (新任)

(株)丸広百貨店 執行役員総務人事部長

関根 勇治 代表取締役社長

初雁興業(株) 代表取締役社長

会長挨拶



会長
原 敏成

会員の皆様におかれましては、日頃より当協会の活動にご理解をいただき、多大なるご協力をいただいておりますこと、深く御礼申し上げます。

今年度の当協会の総会・講演会は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、残念ながら中止とさせていただきます。ご講演いただく予定でありましたシントン・ラビーセートパン大使閣下には、タイ王国と日本に深く関係する魚のお話をぜひ会員の皆様へ紹介したいとのことでご寄稿いただき、深く感謝申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が世界中に影響を及ぼし、当協会においても思うような活動が進められない時期でもありました。そのような状況下でも、チェンマイ県メーター幼小中校への保健室建設事業の実施、日タイ修好130周年記念事業の継続として、電気の無い村の通学路への太陽電池式街灯の設置を行うことができました。また、過去の寄贈施設の近況調査を行い、広報紙にて会員の皆様へご報告することで、当協会の果たしている役割を改めて実感することができたと考えております。調査にご協力いただきました現地地の協力者の方々に心より感謝いたします。

まだまだ先が見通せない状況ではございますが、来年度に向けて、チェンライ県の教育施設の建設支援事業を検討していきたいと考えております。今後とも支援のニーズ調査を実施しながら、当協会として何ができるか検討し、実行してまいります。

最後に、皆様方からの格別のご高配に心より感謝申し上げますとともに、埼玉県とタイ王国の友好関係が今後ますます進展しますよう、あらためてご支援、ご協力を賜りたく、よろしくごお願い申し上げます。

シントン・ラー・ピセートパン駐日タイ王国特命全権大使のご講話 与え続ける贈り物 — 食料安全保障と持続可能な生活のためのタイの探求 —



▲シントンラーピセートパン駐日タイ王国特命全権大使

「水に魚あり、田に米あり」という言葉は、新鮮で手頃な食べ物が豊富なタイの自然の豊かさを表しています。タイ人の多くは、良質なタンパク質を手軽に摂取できる淡水魚についてよく知っていますが、すっかりお馴染みの名前であるにもかかわらず若いタイ人が正確な由来を知らない魚があります。それは「プラーニン」です。

プラーニンは、北アフリカと中近東の一部の地域に生息するシクリッド科（カワズメ科）のマウスブルード（稚魚が巣立つまで、孵化したばかりの子を口の中で育てる口中哺育魚）で、科学者の間ではカワズメまたはナイルティラピアとして知られています。（中略）

この魚の物語はタイの宮殿の池で育てられた50匹のティラピアから本格的に始まりました。その子孫は、やがて何百万人もの人々を養うことになるのです。

ティラピアがタイで人気を博すようになったきっかけは、1964年に日本国の明仁上皇陛下が当時皇太子殿下であられた際に、タイを御訪問なされたことにまで遡ります。魚類学に造詣の深い皇太子殿下（当時）は、カセサート大学水産博物館を御訪問なされた際に、館内に展示されていた多くの魚類の標本を熱心に御覧になられました。その中で、タイで最初に発見されたハゼの標本に関心をお寄せになりました。

魚類に関する豊富な知識をお持ちの殿下は「これはスミス博士が発見した魚ですか？」と御質問なされたそうです。この御言葉には2つの理由から特別な意味があります。ひとつは、この魚がプミポン前国王の父君マヒドン・アドゥンヤデート親王に敬意を表して「Mahidol Goby Fish」と名付けられた魚だということ。もうひとつは、この種が1953年に魚類学者の権威であるヒュー・マコーミック・スミス博士によって最初に発見され、命名されたということです。博士はプミポン前国王の叔父であるラーマ6世が、国の水生動物保護局を設立するのに携わり、後に初代局長に就任しました。

歴史的な御訪問により、現在の日本の上皇陛下とタイの前国王の間で魚類研究への御関心を通じた末永い友情が生まれました。この出来事をきっかけに、タイの一般家庭に安価なタンパク質源である「プラーニン」が普及していくこととなります。美味しくて身が柔らかいプラーニンは人気があり、通常は揚げたり、焼いたり、他の食材と調理することによって、タイ料理ならではの「うまみ」を出すことが出来ます。

1965年、プミポン前国王はティラピアの寄贈について当時の明仁皇太子殿下に御手紙を送られ、皇太子殿下はそれに応えられ50匹のティラピアを贈られました。最初の稚魚は、国王の御住まいであるチッラーダ宮殿の池で飼育されました。魚は宮殿を棲み処として瞬く間に繁殖し、10,000匹以上に上る稚魚が水産局に下賜されました。以来、ティラピアはタイ各地の水田や池、その他の水源で見られるようになりました。（中略）

そのような高品質のタンパク質を手に入れることで、多くのタイ人は外部からの変化に対する強靱さ、つまり「自己免疫力」を得ることが出来ます。これは、飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進するというSDGsの目標2に従って、持続可能な食料安全保障を促進しながら、予期しない衝撃や外部からの保護のレベルを確保しようとするプミポン前国王御提唱の「足るを知る経済」(SEP)と一致しています。王室の御支援と御指導により、水産局は大規模な商業養殖用のプラーニンの大量生産を可能にする養殖技術を革新することが出来ました。最新の技術で、親魚の口の中の状態を模倣する人工的なトレイの中に魚の卵を入れることで、自然な口内保育プロセスに伴う突然変異や早期死亡の割合を減らすことが出来ました。この技術のおかげで、プラーニンは現在、年間22万トンの養殖能力で大量生産が可能になり、全国で30万人以上の養殖業者がこの最新技術を採用しています。

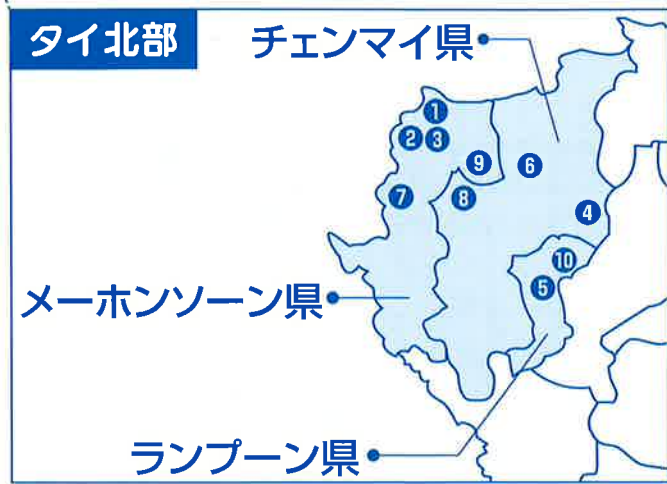
養殖業者はまた、製品加工にも工夫を凝らしています。白身魚を市場に出すだけではなく、現代の消費者向けの加工品として、フィッシュチップスのような美味しいスナック製品やハープ入り焼き魚など商品の多様化が進んでいます。そうすることで、漁師たちはまた中間業者の悪循環を断ち切ることを目指しています。（中略）

科学と動物学への愛情から生まれた友人への贈り物「ナイルティラピア」は、国境を越えて与え続けることができる贈り物です。年間数万トンのプラーニンが生産されており、タイ国内外の無数の家庭に安定した生活を提供しています。また、食料安全保障や経済的繁栄を支援し、「足るを知る経済」に沿った確かな収入源となっています。

埼玉・タイ王国友好協会 過去の寄贈施設の近況報告

当協会は埼玉県とタイ王国の友好関係の進展を図ることを目的として1999年3月16日に発足し、公共の支援が十分に行き届かないタイ北部の山岳地域を中心に、教育関連施設の寄贈や奨学支援など民間ベースでの「草の根外交」に取り組んでまいりました。

前号に引き続き、これまで当協会が寄贈した教育関連施設を現地協力者の方に訪問・調査していただきましたので、報告いたします。



⑥ パーン・パンホウェイタード校
チエンマイ県 メーティン郡

- 図書館 (21坪×1棟)
- 2009年1月完成
- 52万B (約150万円)



2月2日
宛に訪問し、当協会が寄贈した図書館の状況を確認しました。館内は図書や設備が充実しており、子ども達の教育に関しては高い効果があったとの事です。一方で建物は傷みが見られ、特に雨



による影響が大きいようでした。
また、図書館の隣には技能訓練センターとして小さな小屋が建てられています。山岳地域の特に男の子達は力仕事や職業技術に関心があるとの事で、現地の子ども達の様子を

参考に、今後は新たな形で人材育成支援も提案できればと考えています。

⑦ パーン・メーサパーターエー校
メーホンソン県 クンコム郡

- 校舎 (77坪×1棟)
- 2011年2月完成
- 117万B (約330万円)

2月5日(金)に訪問し、当協会が寄贈した校舎1棟(4教室分)の状況を確認しました。現在この校舎では小学3年生と5年生が学んでおり、綺麗に整理整頓され、大切に使用されているとの事でした。



⑧ パーン・シエムラン校
チエンマイ県カンラヤーニワッタナ郡

- 校舎 (77坪×1棟)
- 2013年2月完成
- 126万B (約330万円)



2月3日
宛に訪問し、当協会が寄贈した校舎1棟(4教室分)の状況を確認しました。いずれの教室も綺麗に使用されており、また、校内のインターネット環境が整備され、コンピュータールームが作られているとの事でした。しかし、トイレの造りや状態は悪いとの事でした。

⑨ メーピン校
メーホンソン県 パーイ郡

- 幼児舎 (100坪×1棟)
- 2015年1月完成
- 120万B (約330万円)

2月3日(木)に訪問し、当協会が寄贈した幼児舎の状況を確認しました。学校側で幼児舎をさらに改装し、2

部屋続きのプレイルームを作って、園児遊戯会などにも活用しているそうです。



昨年メーピン校を退職されたジラポン校長は教員不足を自費で補うなど大変教育熱心な方で、当協会の奨学資金支援事業の立ち上げにもご尽力をいただきましたが、この幼児舎は「幼児をもっと預かれるようにして、教育レベルの底上げをしなればならない」との思いから、当協会での寄贈にいたしました。

⑩ ポメロップ校
ランブーン県 メーター郡

- 多目的食堂 (34坪×1棟)
- 2017年12月完成
- 46万B (約155万円)

2月15日(月)に訪問し、当協会が日タイ修好130周年記念事業として寄贈した多目的食堂の状況を確認しました。建設途中で当時の校長先生が異動し、後任不在の期間が2年続いた影響から、追加器具などが揃わず、残念ながら食堂としての利用が叶わなかったそうです。しばらくは



今回の調査では、寄贈施設が様々な形で活用されている事が分かった一方で、建物の劣化やインフラ・トイレ設備の整備の遅れなど、山の学校の新たな問題を把握する事ができました。この調査結果をもとに、ニーズを掘り起し、今後の支援事業につなげていければと思います。
また、コロナ禍の大変な状況においてもこのような詳細な調査を実施できたのは、現地協力者のワンチャイ氏およびマイ氏のご尽力はもちろんのこと、タイ在住で日本に一時帰国されている会員の堀田様が現地との仲介役を担ってくださったおかげであり、深く感謝申し上げます。

学生への奨学支援資金授与を実施しました

当協会では2016年より学生への奨学支援資金授与を行っており、8月に第1期から第6期まで計13名の支援生へ今年度分の支援金の授与を行いました。今年から新たに支援生となった公立メーリム高校へ通うチャンチラーさんとパニダーさんより、一生懸命勉強されている日本語でお礼のメッセージをいただきました。両名とも、将来は日本語のスキルを活かせる職業に就きたいということです。以下のQRコードからご覧いただけますので、ぜひご視聴ください。



▲パニダーさん
公立メーリム高校 日本語科1年



▲チャンチラーさん
公立メーリム高校 日本語科1年

タイ王国のコーヒー文化と特徴

屋台コーヒーの文化

コーヒーの屋台は、都市部の広場や道路脇などで頻繁に見かけることが出来ます。そしてタイの人々は、日本人が自販機で飲み物を買うのと同じ感覚で、手軽な屋台でコーヒーを買って飲み歩いています。

屋台コーヒーの特徴は安価であることです。現地のスターバックス100パーツ前後に対して、屋台コーヒーは20〜40パーツで買えるというのです。

屋台コーヒーは、深煎りで甘い

タイの屋台コーヒーは、深煎りでコクと苦みの強いコーヒーを、練乳やガムシロップで甘々にして飲まれます。しかしアイスで飲まれるためスッキリしたテイストで、甘々なのに飲みやすいコーヒーが多いです。

特に甘いコーヒー文化は根強く、無糖と注文しても微糖で出たり、甘い練乳の代わりにミルクを入れたり、少しでも飲みやすくして出してくれます。



埼玉・タイ王国友好協会公式ホームページにて 随時情報配信中！

埼玉・タイ王国友好協会の公式ホームページでは、本協会の概要やこれまでの活動を紹介しております。今後は過去に寄贈した施設の様子などを写真や動画でご覧いただけるよう、随時更新予定です。ぜひチェックいただき、新規会員様のご紹介にもお役立てください。

今回はお試しとして、本記事内でもご紹介したメーホンソーン県メーピン校の幼児舎の様子を、以下QRコードから動画でご覧いただけます。



▲埼玉・タイ王国友好協会
公式ホームページ



▲メーピン校幼児舎
教室の様子

ダルニー奨学金 本年度の授与者

本年度の新規授与者は、次の3名です（年間1人14,400円で3年間）。

ダルニー奨学金は、経済的貧困のため、教育の機会に恵まれないタイ・ラオス・ベトナムなどの子どもたちの中学生就学を支援する国際教育里親システムです。



セーラチョット・
ティアピビム

13歳



カンティダー・
プラタタコ

13歳



サードトラ・
バンルエハーン

13歳

埼玉・タイ王国友好協会ウェブサイト

<http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

・会員増強にお役立て下さい

会 員 募 集

年会費 法人会員 2万円 問い合わせ TEL:049-247-5428
個人会員 2千円 FAX:049-246-2118

(武州ガス(株)内)

編集後記

タイ王国大使より貴重なご講話をいただき、あらためてタイの自然の豊かさに感銘しました。

(H)

コロナウイルスへの感染対策は今後も継続されますが、大使館の方々や会員の皆様が顔を合わせられる日が訪れることを期待しています。

(O)